

令和3年度 第4回名護市地域公共交通協議会  
議事録

【開催日時】令和4年2月8日(火) 14時～

【開催場所】宮里公民館及びWEB

【出席者】20名

	組織	役職	氏名	出席	代理出席
会長	名護市	副市長	金城 秀郎	—	
副会長	琉球大学工学部	准教授	神谷 大介	○	
委員	内閣府沖縄総合事務局運輸部企画室	室長	齋藤 洋一郎	○	
	内閣府沖縄総合事務局運輸部陸上交通課	課長	小谷 和史	○	
	内閣府沖縄総合事務局北部国道事務所	副所長	屋我 直樹	○	
	沖縄県企画部交通政策課	課長	金城 康司	○	下地 努
	沖縄県土木建築部北部土木事務所	所長	桃原 一郎	○	砂辺 秀樹
	名護警察署交通課	課長	金城 広樹	○	比嘉 聡
	一般社団法人沖縄県バス協会	専務理事	慶田 佳春	○	儀保 亮樹
	一般社団法人沖縄県ハイヤー・タクシー協会	事務局長	津波古 修	○	
	私鉄沖縄県労働組合連合会	執行役員長	喜屋武 悟	○	
	沖縄バス株式会社運輸部業務課	課長	名嘉山 敬雄	○	
	株式会社琉球バス交通経理部統計課	次長	小橋川 共隆	○	
	株式会社北部観光バス運行安全管理部	次長	宮城 敦	○	
	株式会社丸金交通	代表取締役社長	運天 健	○	
	合資会社北部観光タクシー	代表	湖城 秀實	○	
	名護市区長会	会長	大城 將計	○	
	名護市老人クラブ連合会	会長	宮里 繁	—	
	名護市商工会	会長	山端 康成	○	小渡 智矢
	公益財団法人名護市観光協会	理事長	前田 裕子	○	
社会福祉法人名護市社会福祉協議会	会長	野原 健伸	○		
第一マリンサービス株式会社	代表取締役	熊坂 俊彦	○		

※協議会会長が欠席のため、議事進行は副会長が代理で行う。

議題(1) 実証実験利用状況について<質疑応答>

番号	委員	事務局
(1)-1	18 ページのコミュニティバスを利用しなかったときの交通手段について、他の路線バスという回答が 26 件あった。今回のコミュニティバスは、イオン名護店の利用が多いため、あまりこの回答を想定していなかった。該当する人は、南北線の名桜大学生ではないかと思うが、わかることがあれば教えてほしい。(小橋川委員)	詳細な分析は行っていないため、今後実施し、次回報告する。今後本格的にコミュニティバスの運行を検討していく際には、競合等に十分留意して検討を進める。また、有償化を検討していく際には、運賃のバランス等についても留意する。
(1)-2	免許返納者や高齢化が進む中で、応じて外出頻度が下がっているかどうかを確認してほしい。今後どのような公共交通を維持していく必要があるのかを整理する際や、公共交通を通して外出を促進していくこと等も重要な視点である。(神谷副会長)	指摘を踏まえて分析、整理を進めていく。

議題(2) 地域公共交通計画の基本方針 及び 実施施策と目標・指標について  
<質疑応答>

番号	委員	事務局
(2)-1	90 ページについて、交通事業者からの要望の箇所の文章中に、「タクシーとの連携」も追記してほしい。(小橋川委員)	承知した。

(2)-2	<p>これから進められる施策の中で、市内のコミュニティバスと広域的なネットワークの連携は必要だと思っている。</p> <p>短期的にも、長期的にも、交通結節点を含めた連携について注意しつつ施策の検討を進めてほしい。(小橋川委員)</p>	<p>コミュニティバスの導入に当たり、市全体のバス路線との連携も考えながら導入を考えていくことは重要だと考えている。そのニュアンスが伝わるように修正する。</p>
(2)-3	<p>事前に沖縄総合事務局から出させていただいた意見についても一部修正対応いただいていることを確認した。</p> <p>102 ページについて、中長期的なイメージ、ビジュアルでイメージが湧いていいと思うが、海上交通の記載がない。中長期の実施イメージに入れておいた方がよい。(齋藤委員)</p>	<p>承知した。</p>
(2)-4	<p>103 ページについて、国土交通省「地域公共交通計画等作成と運用の手引き」のガイドライン中の指標の記載には、標準指標、推奨指標、選択指標があり、標準指標、推奨指標については、基本的に載せることとなっている。確認していただきたい。(齋藤委員)</p>	<p>承知した。</p>
(2)-5	<p>103 ページについて、施策と目標値については関連性の薄いところがあるのではないか。ブラッシュアップをお願いしたい。(齋藤委員)</p>	<p>承知した。</p>

(2)-6	<p>105 ページについて、国土交通省「地域公共交通計画等作成と運用の手引き」のガイドライン中では毎年度評価が原則となっているため、毎年度出来ないものについては、理由を記載したほうが良い。(齋藤委員)</p>	<p>原則毎年度ということは承知した。アンケート等で把握する部分については、どのように設定するか再度確認する。全体的に指標をどのように設定するかについては、第5回協議会に向けて精査できればと思う。別の指標やアンケートでの代替も含めて検討を進める。</p>
(2)-7	<p>国土交通省「地域公共交通計画等作成と運用の手引き」のガイドライン中に計画のチェックシートがあるのでパブリックコメント前に確認してほしい。(齋藤委員)</p>	<p>承知した。</p>
(2)-8	<p>パブリックコメントの前に記載できるものはちゃんと記載したほうが良いので、指標等は先に設定しておいた方が良い。プロセスはちゃんと意識してほしい。(齋藤委員)</p>	<p>承知した。指標等含めて達成条件の評価、進捗状況等を再度精査して評価スケジュールについて整理したいと思う。</p>
(2)-9	<p>103 ページの各交通の輸送人員の目標はどうやって設定しているのか。(運天委員)</p>	<p>中長期的な拠点整備でタクシーも二次交通等で伸びる想定ということで目標値を設定している。確認して追って報告する。</p>
(2)-10	<p>基本目標として持続可能な公共交通サービスを挙げているが、その中の目標と施策の展開の中で「市内のみで完結するバス路線の見直し」、「公立沖縄北部医療センターの開業を見越した公共交通ネットワークの再編」、「北部エリア全域のバス路線の見直し」、「名護漁港における公共交通結節機能集約による路線バスの再編」等について、既存のバス事業者様との</p>	<p>承知した。路線バス事業者と連携して検討を進めていく。</p>

	<p>協議なしには進められないことかと思うので、しっかりと協議・検討の上でバス事業者の負担とならないよう留意して進めてほしい。</p> <p>(小谷委員代理 金城氏)</p>	
(2)-11	<p>99 ページの基本目標 3 の事例でタクシー乗り場の件が触れられており、感謝している。前回の意見等が反映されてのことだと思う。この計画は長期にわたる計画なので、タクシー乗り場関係について、例えば、公共施設とか商業施設、観光施設等でも、タクシーの乗り場は必要になってくるかと思うので、可能な限り文言を追加してもらえればと思う。(津波古委員)</p> <p>乗降場については、可能性があるとところが短期・中長期で分かれると思うが、追記していただく方向で良いか。(神谷副会長)</p>	<p>内容的には十分盛り込めるものかと思う。評価、中身の検証についてご協力いただければと思う。</p>
(2)-12	<p>98 ページの誰もが利用しやすい公共交通で交通弱者に触れている。タクシー事業者としては、ジャパンタクシーなどのユニバーサルデザインタクシーで交通弱者への対応をさせてもらっているのので、計画中でも触れていただければと思う。PDCA を回していく中で考えてもらえればと思う。(津波古委員)</p> <p>指標でどのように整理できるかというところはあるが、事業者にデータを提供してもらい、計画に加えてもらうことで良いか。(神谷副会長)</p>	<p>データを確認し、検討する。</p>

(2)-13	<p>95 ページの目標達成するための施策について、短期の施策期間は令和 8 年度まで、中長期について令和 11 年度までということで良いか。(野原委員)</p>	<p>短期は概ね 5 年以内で対応出来るもので設定している。中長期は総合計画にあわせて令和 11 年度としているが、実際にはもっと時間がかかるようなものも含めて記載している。</p>
(2)-14	<p>98 ページでは、ノンステップコミュニティバスの導入は令和 5 年度までかかると記載されており、99 ページでは、市街地コミュニティバスの導入が令和 4 年度、5 年度の実証、調整と記載されている。市街地コミュニティバスについては、令和 4 年度についても実施して、ノンステップコミュニティバスについては、令和 5 年度に導入という計画になっているのか。(野原委員)</p>	<p>現時点では、次年度にコミュニティバスの有償実証実験を実施して、並行して車両の購入も進めていくことを想定している。そこで運賃・ニーズ等も調査していきたいと思っている。車両購入後の令和 5 年度から本格運行が出来ればと思っている。</p>
(2)-15	<p>98 ページのノンステップコミュニティバスの導入については、高齢者や障がいを持っている方からするとありがたいことだと思っている。南城市が導入した事例について、現状や課題があるか等把握しているのか。把握している場合、写真を見ると車椅子が乗れそうなバスとなっているが、障がいの度合いによっては、介助が必要な方もいる。そのような人の移動に対しては、福祉タクシーなどを活用した方が良い等、担当部署との調整が必要になってくるかとは思いますが、すみわけが必要と感じている。(野原委員)</p>	<p>南城市の事例について、細かく把握出来ていないため確認する。他の施策との整理についても、検討していければと思う。 ノンステップコミュニティバスが本格運行する際には、車両を市で購入し、運行をバス事業者に委託することで運行実施を考えているが、委託する際に介助を仕様として盛り込んだ形で委託しようと思っている。</p>

(2)-16	<p>97 ページの運転免許取得支援はどのぐらいの支援を考えているのか。教育に関する支援とも読み取れるが、事業者で雇って実車教育をしている部分の費用も見込んでいるのか。(宮城委員)</p>	<p>南城市が以前に実施した、市内線運行に伴うバス運転手育成支援の事例を想定している。内容としては、入学金、教材費、適性検査、学科教習、技能教習、効果測定、終了検定、卒業検定に係る費用が補助されている。ヒアリングでは、バス事業者だけでなく、タクシー事業者からも運転手の不足や高齢化が課題と聞いている。名護市の方ではタクシー事業者も含めて免許取得の補助を考えている。</p>
(2)-17	<p>(運転手の免許取得支援について) 免許取得の全額を支援すると聞こえたがそれでよいか。(宮城委員)</p>	<p>事例を参考に内容は固めていきたいと思っている。</p>
(2)-18	<p>(免許取得支援の内容について) 次の機会にそのあたりもはっきりしてくると思ってよいか。(宮城委員)</p>	<p>その認識で問題ない。</p>
(2)-19	<p>ノンステップバスの導入と同時に、電気バスなど環境に配慮したバスについても考えてもらいたい。CO2 削減やカーボンゼロの取り組みなどもリクエストしたい。(前田委員)</p>	<p>ノンステップバスの購入については、環境に十分配慮したものになりたいと思う。</p>
(2)-20	<p>103 ページの指標に、「公共交通を利用した観光客数」があるが、名護市内の住民が便利に暮らしているということが、来訪者の視点では呼び水になるのではないかと。MaaS をやっていくということであれば、観光客は予約ができたり、電子決済ができたりということが目的になると思うが、そういった決済システムや仕組みは、市民が</p>	<p>ご指摘の通り、MaaS の展開は名護市民のバス利用にも効果的だと思うので、MaaS の展開が観光客に限った話ではないことを表現できればと思う。</p>

	<p>利用する際のシームレス化に繋が り、利用頻度の増加にも繋がると 思う。(前田委員)</p>	
(2)-21	<p>98 ページにおでかけなんじい のイメージが記載されているが、 実際名護市としても、デマンドタ クシーのイメージを持っていると いうことで良いか。(運天委員)</p>	<p>今年度の実証実験の評価や、そ れ以外の地域移動ニーズを考慮 し、そのニーズを満たすためには 様々なメニューがあるかと思うの で、ネットワーク再編と対応して 検討を進めて行くことを想定して いる。特におでかけなんじいのよ うな手法に限定しているわけでは ない。</p>
(2)-22	<p>1つの手段としてデマンドタク シーもあるということで承知し た。デマンド交通の検討期間が長 いのではないか。(運天委員)</p>	<p>ネットワーク再編の状況も踏ま えて、期間含め柔軟に検討を進め られればと考えている。名護市が 実際に何をやっていくかについ ては、現在の資料では見えないと ころがあると思う。市の方で検討 を進めて具体的に記載できるもの については記載して、第5回協議 会で報告したいと思う。</p>
(2)-23	<p>名護市では要介護認定者、高齢 者等に向けた福祉タクシー等移動 支援の施策はあるのか。 それはタクシーチケットの配布 なのか、または別の乗り物を使っ てのものか。(神谷副会長)</p>	<p>今現在、障がい者、高齢者の福 祉輸送の施策は実施している。 障がい者の方は、輸送支援とい うことで障がい者手帳を所持して いる方に対して、タクシーチケッ トを配布している。高齢者は介護 担当部署の方で、移動支援事業を 行っていると把握している。</p>

(2)-24	<p>106 ページの計画全体のマネジメントについて、地域公共交通協議会での報告とあるが、今後この事業の進捗・点検・検証や、計画を推進していくのは、地域公共交通協議会での報告という表現で良いのか、それとも個別にそういった会議を開くことを想定しているのか。(野原委員)</p> <p>地域公共交通協議会での報告から何にも結びつかないので、どうい改善に繋がるかを明記したほうが良い。(神谷副会長)</p>	<p>報告だけでなく改善に繋がるように表現を調整する。</p>
(2)-25	<p>次の振興計画では、労働生産性を高めていくということがキーワードとして書かれている。バス事業者もタクシー事業者も同じかと思うので、この計画中でも労働生産性という観点があっても良いかと思った。(神谷副会長)</p>	<p>今後大事な視点だと思うので、キーワード的に入れていければと思う。</p>
(2)-26	<p>MaaS 及びシェアサイクルは住民も含めて表現してもらったほうが良い。シェアサイクルは学生の移動手段になり得ると思う。(神谷副会長)</p>	<p>観光客だけでなく市民も、ということで表現を調整したい。</p>
(2)-27	<p>92 ページの方向性①について、北部エリアにおける名護市の役割は、北部地域の玄関口だけでなく医療や商業の拠点でもあると思う。表現を調整してほしい。(神谷副会長)</p>	<p>玄関口としてしまうと観光的なトーンが強くなってしまう。北部エリアの拠点として、医療や商業、産業諸々の中心部ということ表現出来ればと思う。</p>
(2)-28	<p>バス事業者やタクシー事業者、地域公共交通協議会、名護市が実現に向けて頑張りますと書いてあるが、市民の責任についても記載した方が良いのではないかと。</p>	<p>具体的な施策をよりわかりやすく記載できるかを考えていく中で、どういった当事者を入れるかということ意識したいと思う。市民についてもその中で書き込ん</p>

<p>バスが良いか、自家用車が良いかを今の満足度だけで決めると多くの人が自家用車の方が良いと回答すると思うが、例えば高齢者のために、利他的な観点でバスを利用するといった視点や、将来自分たちが必要になったときにバスが継続されているためにバスに乗ることといった視点も必要ではないか。</p> <p>市民の責任といった観点を記載がされていない。そういった観点を言葉も入れていただけたらと思う。モビリティ・マネジメントの中で協力してくださいということなのかと思うが、具体的に学校行事の中で使ってもらえる等を記載しても良いと思う。その予算をバス事業者に出すのではなく、バスに乗らせることとして、学校にお金を払うという、市民が前に入る視点があっても良いかと思った。</p> <p>(神谷副会長)</p>	<p>でいければと思う。モビリティ・マネジメントについても具体的に記載できればと考えている。</p>
---	--

<その他意見>

- ・ タクシー業界としても名護市の公共交通として、利用者数を増やしていかなければならないと思っている。(運天委員)
- ・ 南城市では、障がいの度合いにより介助が必要な方は、おでかけなんじいを使っている状況である。  
(神谷副会長)
- ・ 沖縄県内では電気自動車が温室効果を出してしまうという現実がある。沖縄県での温室効果排出量を踏まえたうえで検討してほしい。(神谷副会長)
- ・ 高齢者福祉の施策と障がい者福祉の施策は、スクールバスと病院送迎バスのように、もう少し表に出る表現にしておいたほうが良いのではないかと。(神谷副会長)
- ・ PDCA を回していくのが、公共交通会議だと思うので、表現には気をつけてほしい。(神谷副会長)

- 乗務員不足ということだが、労働環境が非常に厳しいため、運転手の募集をかけても来ないということが現状である。そういった労働環境についてしっかりしていかないといけないと思う。資料の中では、スクールバスや送迎バスとの重複について記載されているが、混乗等も考えていただきたい。来年以降はもっと厳しいダイヤ編成になるのではないかと考えており、中長期的には、南城市が行っている役割分担のように、労働環境の支援も交通事業者と連携しながら進めていただければと思う。(喜屋武委員)